

第 1 回 沿岸部（港湾）における気候変動の影響及び適応の方向性検討委員会
 指摘事項・課題とその対応

○指摘事項

議題と内容	指摘事項	指摘事項への対応
(2)答申のレビューについて	①「海岸保全施設の更新等に合わせた地球温暖化適応策検討マニュアル」で整理されている考え方に基づいて現実の更新整備がなされているか確認してほしい。	平成 23 年以降に修繕した 145 事例を調査したところ外力の変化に対応した対策事例は 2 事例のみでした。(資料 6 にて説明)
	②IPCC のレポートについてどの程度確実性があるのか考えながら対応してほしい。	ご指摘を踏まえた海面上昇のシナリオ(案)を提示します。(資料 6 にて説明)
(3)影響の検討における前提条件について	①100 年後における経済状況と要求水準が現況と変わらないとした場合の予測結果であるという、全般的な前提条件を明示した方が良い。	100 年後の具体的な設定は困難であり、ご指摘のように対応します。
	②台風 0416 号や台風 0418 号について、波による被害もあるため、そういった面も考慮してほしい。	高波について考慮します。
	③年平均潮位のトレンドは戦前と戦後で不連続になっているため、原因を調査すること。	気象庁へ確認しました。 ・1950 年代から 1960 年代にかけての海面水位の低下については、主に偏西風などの大気変動の影響が要因の 1 つとして考えられるが、図で示される水位変化の全てを説明することはできない。 ・地盤変動等の補正を行っていないため、その影響が含まれている可能性がある。
(4)港湾分野における影響について	①潮位条件の上昇量は 0.82m 以外、たとえば 0.2m といった現実的な値で検討しないのか。	2050 年に 20cm というところを直近の現実的な対応として検討します。(資料 6 にて説明)
	②静穏度の検討については、三大湾で検討すると物量が多くなるため検討箇所を吟味した方が良い。	影響を受けやすい特徴を有する地域について、注意喚起できるよう次回までに情報整理を行う。